朝日新聞社提供

朝　日　新　聞
２０２０年（令和２年）５月１３日（水曜日）（１９）

地域をデザイン 住民と

八戸工大生、岩手の防潮堤ペイント

「海を感じる壁画」計画

地域をデザインする――。八戸市にある八戸工業大学感性デザイン学部創生デザイン学科が、そんなユニークな取り組みを続けている。今年度は、東日本大震災で被災した岩手県山田町の防潮堤への壁画を計画、町民とともにデザインしていく。

作品展に向けての学生たちの作業風景＝2019年8月、八戸工業大学提供

創生デザイン学科は、人がなぜ感動するのか、心地よさを感じるのはなぜか――といったテーマについて研究しながら、デザイン的思考から地域の再生などに取り組み、人材を育てていく方針という。

２０１８年度からスタートし、1学年50人。ビジュアルデザイン、リビングデザイン、地域づくりの3コースとなっている。

昨年11月下旬には、隣接する階上町で、町民と学生がともに作り上げた作品展「つくる　はしかみ」を開催した。期間中は、八戸市民や町民らが訪れ、芸術作品に触れた。

今年度は、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県山田町で活動する。防潮堤により海が見えなくなってしまったという山田町で、１００㍍を超える長さの防潮堤に、学生たちが何年もかけてペイントする計画だ。

陸からだけではなく、海側の壁面にも工夫を凝らす予定だ。町や住民らと話し合い、調整やＰＲなどにも積極的に学生が関わっていくという。

担当する皆川俊平講師は「海は見えないが、海を感じられるペイントを、地元の中高生らとともに作りたい」などと意欲的に話している。

（横山蔵利）

※この記事・写真等は、朝日新聞社の承諾を得て転載しています。【承諾番号：20-1820】
朝日新聞社/朝日新聞出版に無断で転載することは禁じられています。